

東京藝術大学キュレーション教育研究センター「展覧会設計演習」は、Slit Park YURAKUCHOとYAU CENTERで「丸の内Drippin' Tripper (ドリッピング・トリッパー)」を開催しました。

「丸の内Drippin' Tripper」は、アーティストの久保ガエタンと武田萌花による「抽出」と「移動」をテーマに、大丸有エリアの隠れた歴史と見逃しがちな風景を掘り起こすような展覧会です。

大丸有(大手町・丸の内・有楽町)は、かつて諸藩の大名屋敷が立ち並ぶ地域でした。明治期には赤レンガや石造りの建物が誕生し、現在では国内外の企業が集まるビジネス拠点となっています。本展では、このエリアの昔の記憶や現在の姿を手がかりに、2人のアーティストが現実とフィクションを織り交ぜながら、新作を制作し、時と場所を超えた白昼夢のような世界を創り出しました。仕事の合間や休日に立ち寄った多くの観客は、この街を抽出する不思議な旅へと誘われました。

最後になりますが、展覧会開催にあたり、多大なご尽力を頂きました久保ガエタン氏、武田萌花氏をはじめ、関係各位に厚く御礼申し上げます。

2024年10月
東京藝術大学キュレーション教育研究センター「展覧会設計演習」

展覧会概要 |
展覧会名
丸の内Drippin' Tripper
会期: 2024年10月19日[土] - 26日[土]
13:00 - 19:00 (会期中無休) | 入場無料
開催場所: YAU CENTER, Slit Park YURAKUCHO
来場者数: 1,851名
主催: 東京藝術大学キュレーション教育研究センター
有楽町藝大キャンパス (東京藝術大学、東京都、YAU)
特別協力: Slit Park YURAKUCHO、東邦レオ株式会社
協力: 株式会社中川ケミカル、画翠 GASUI

関連イベント |
久保ガエタン 武田萌花 ツアー&アーティストトーク
日時: 10月19日[土] 17:00 - 19:00
開催場所: Slit Park YURAKUCHO, YAU CENTER
参加者数: ツアー19名、アーティストトーク27名

久保ガエタン Gaëtan Kubo
1988年生まれ。アーティスト。展覧会が開催される土地で綿密なリサーチを行い、さまざまな虚実を大胆かつ飛躍的に結びつけながら、独自の装置などを交えたインスタレーションや映像で表現することを得意とする。
2013年東京藝術大学大学院美術研究科修了。公益財団法人ポラ美術振興財団在外研修員としてフランスにて研修。京都市芸術文化特別奨励者。糺の森会員。 <https://gaetankubo.com/>

武田萌花 Moka Takeda
1997年生まれ。アーティスト。「車窓風景」や「工事現場」など都市の日常的な風景から着想を得て、情報やイメージで氾濫した現代におけるリアリティとは何かを問うインスタレーション作品を発表する。
2024年 東京藝術大学大学院美術研究科修了。主な展覧会に、2024年『ヨーゼフ・ボイス ダイアログ展』(GYRE gallery)、2023年『エマー・ジェンシーズ! 045』(NTTインターコミュニケーション・センター)など。2024年「藝大アートプラザ・アートアワード 2024」デジタルアート部門「JR東日本賞」受賞。2021年「群馬青年ビエンナーレ2021」入選。 <https://www.mokatakeda.com/>

展覧会設計演習とは？
東京藝術大学キュレーション教育研究センターが藝大生・社会人受講生を対象に、2023年度より開講している社会共創科目(公開授業)で、受講生は現代美術の展覧会の企画から制作、運営までのプロセスを実践的に学びます。
https://ccs.geidai.ac.jp/learn_with_us/2024-005/

有楽町藝大キャンパスとは？
「有楽町藝大キャンパス」は、東京藝術大学、東京都、有楽町アートアーバンイズム YAUの三者で連携して実施するアートと社会を結ぶコーディネーター人材育成プログラムです。
大手町・丸の内・有楽町(大丸有)地区においてYAUが育ててきたコミュニティを活用し、東京藝大の芸術教育の一部を展開しています。
2024年度は、東京藝大の学生が単位を取得できる正規の授業を社会人にも開く「社会共創科目(公開授業)」の枠組みで、キュレーション教育研究センター(CCS)、芸術情報センター(AMC)、未来創造継承センターの3センターから5つの講座を開講。メインの授業会場は有楽町の国際ビルに所在するYAU STUDIOで行い、一部授業の最終成果発表も同エリアで公開されます。

*本展は、東京藝術大学キュレーション教育研究センターが開講する2024年度社会共創科目(公開授業)「展覧会設計演習」の授業の一環として開催されました。

久保ガエタン「ランドスコープ」
日時: 10月20日[日] 14:00 - 16:00
開催場所: Slit Park YURAKUCHO
来場者を名倉聡美(アーティスト/占い師)がラテアートで占いました。
参加者数: 15名

ショーケース上野 撮影: 中川陽介
<http://geidaishokudo.com/>



謝辞
本展開催にあたり、多大な協力を賜りました下記の諸機関、関係者の方々に深く御礼申し上げます。
また、ご協力をいただきながら、ここにお名前を記すことができなかった多くの関係者の方々に深い感謝の意を表します。(敬称略/順不同)

久保 ガエタン
武田 萌花

Slit Park YURAKUCHO
東邦レオ株式会社
株式会社中川ケミカル
三菱地所株式会社

名倉聡美
森山泰地
中川陽介
大西正一
庄子涉
牛島大悟
西本龍生
杉本温子
小沢剛
画翠GASUI
BUG
三菱一号館美術館

展覧会設計演習 |

東京藝術大学 受講生
伊藤弘道
江口湖夏
甲斐千桜妃
齋藤大暉
島田清夏
反町梨里佳
長谷川千紗
宮崎竣輔
宮原朱琳
山名里子

社会人 受講生
五十嵐樹莉
諫山俊之
井上明日香
小黒典子
片山久美子
清原博文
小堀多真恵
坂爪柊也
鈴木綾乃
鈴木大斗
高橋悠花
林田里美

企画監修
難波祐子
(東京藝術大学キュレーション教育研究センター 特任准教授)

高田亜美 (展覧会設計演習アシスタント・コーディネーター)
屋宜初音 (展覧会設計演習アシスタント・コーディネーター)

有楽町藝大キャンパス
<https://yurakucho.geidai-campus.com/>
東京藝術大学キュレーション教育研究センター
<https://ccs.geidai.ac.jp>
有楽町アートアーバンイズム
<https://arturbanism.jp>
Slit Park YURAKUCHO
<https://wick.slitpark.studio.site>



東京藝術大学
キュレーション教育研究センター
「展覧会設計演習」企画展
ドキュメント

wick Bar
MARUNOUCHI
丸の内
Drippin'
E ドリッピング R
Tripper
トリッパー

2024年10月19日[土] - 26日[土]

久保ガエタン
Gaëtan Kubo
武田萌花
Moka Takeda

撮影: 中川陽介

テーフェルケールド
久保ガエタン 《間違茶》

この地は、17世紀初頭にオランダ人航海士ヤン・ヨーステンとキリシタン大名織田長益(有楽齋)の屋敷が建てられていた記録から、[八重洲][有楽町]と呼ばれている。傍近に屋敷を構えたときされる二人には交流があったのだろうか。茶人でもあった有楽齋による茶会に招かれていたか、はたまた現代にタイムトラベルでもすれば、代わりにカフェにでもよるのだろうか。そんな想像を起点に制作が始まった。

Slit Park YURAKUCHOのシャッターには、時系列を軸としたリサーチが広がっている。茶やコーヒーの発祥に始まり、日本への伝播、独自の発展、東西交流等を経て、ヨーステンと有楽齋の生きた時代とこの地にたどり着く。キリスト教が茶の湯に与えた影響を着目している点は、ヨーステンと有楽齋が共に一服していたのではないかと遊び心が掻き立てられる。



5 久保ガエタン《丸の内TEA Ceremony 領収書》
撮影 齋藤大輝



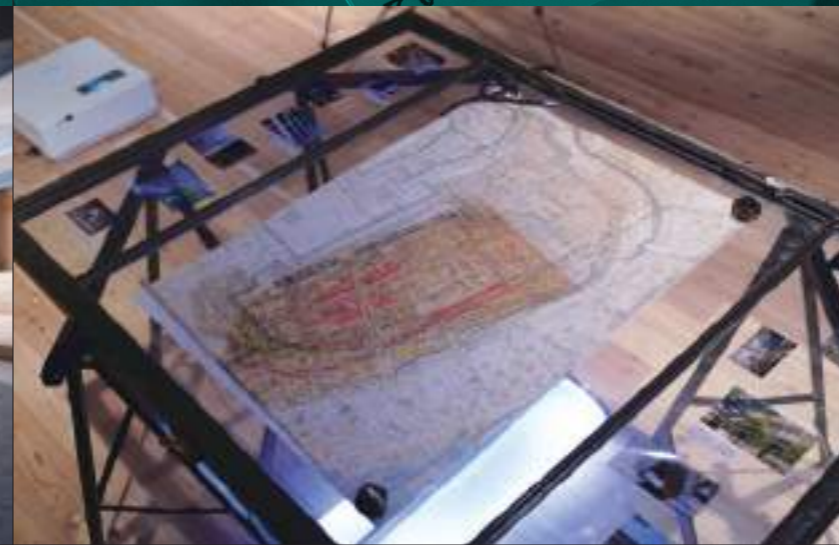
《丸の内TEA Ceremony メニュー》



マインドマップ「御曲輪内抽出録」

- テーフェルケールド
- 1 久保ガエタン《間違茶》撮影 山名里子
 - 2 久保ガエタン《丸の内TEA Ceremony 2 伝播による変化》
 - 3 久保ガエタン《丸の内TEA Ceremony 5 踏み入れることのない地の味》
 - 4 久保ガエタン《丸の内TEA Ceremony グラデーション》
2. 4 撮影 中川隆介

リサーチをもとに、久保ガエタンは間違茶を完成させた。制作にあたり、コーヒーノキとチャノキを接ぎ木して育て、茶葉を採取した。採取した茶葉から点てた抹茶とエスプレッソをブレンドしたのが間違茶である。普段は開かれた休息の場であるここで、偶然に訪れた誰かと鑑賞者とが、抽出された景色の中で飲み物を手に共に時間を喫することは、丸の内という「暮らし」が消滅した地で活動する自身の足元に立ち返るといふ、一期一会の鑑賞体験を引き出すのではないだろうか。かつて東京美術学校(現東京藝術大学)の卒業生が、日本初のカフェを近間にオープンしてから100年が経った今、有楽町藝大に開かれたティーセレモニーこそが、来るべきアーバンイズムに対する精神性を切り開く招待(Teatism)となることを願って。



武田萌花 《Day Dream: Métro-Boulot-dodo》

大手町、丸の内、有楽町という3つの地域は合わせて「大丸有」と呼ばれ、約35万人が働く労働者の街である。武田萌花は大丸有での街歩きを通して、そこで働く人々と風景の關係に着目した。通勤路やオフィスから見える風景は、労働と同じように単なるルーティンの一部かもしれない。しかし、風景は刻々と移り変わっている。何気なく通り過ぎる道にも実は多層的な記憶や歴史が染み付いているのだ。

今回の展示では、YAU CENTERに白昼夢のような空間を立ち上げらせ、私たちにルーティンから逸脱するきっかけを与える。



5 武田萌花 (Timescape Window) 部分

- 1 武田萌花 (Day Dream: Métro-Boulot-dodo)
 - 2 武田萌花 (Loop: Métro-Boulot-dodo)
 - 3 ツアー&アーティストトークの様子
 - 4 武田萌花 (Timescape Window)
- 1-4 撮影 中川隆介

《Day Dream: Métro-Boulot-dodo》は、武田と受講生が大丸有の各地で撮影した映像から成る。Métro-Boulot-dodo(メトロ・ブロード)とは「地下鉄に乗ってオフィスに行き、働いて、ねんねするだけの生活」を意味するフランス語である。この言葉と大丸有という都市の性質、会社員として働く武田の実感が共鳴した。複数の視点を繋ぎ合わせた映像を、風景を切り取るフレームとしての窓から覗き込む。明治時代に「一丁倫敦(ロンドン)」と呼ばれたことから分かるように、大丸有は西洋の均一的な都市計画を参考に形作られた。映像では武田が過去に撮影した風景や、1890年-1945年までのロンドンの映像を用いて、当時の日本人の憧憬を重ねる。

《Timescape Window》は、古地図をもとに大丸有の風景・土地の記憶を明らかにする。トレーシングペーパーにプリントした時代の異なる地図と現在の街のイメージを、かつてこのエリアで使われていた窓の上に重ねることで、地図があらわす風景と人々が認識する風景の間の隔たりが浮かび上がる。



POST CARD

さかば郵便



「丸の内 Drippin' Tripper」

<https://ccs.geidai.ac.jp/2024/09/24/marunouchidrippintripper/>

